

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

ものづくりのまち東大阪市にある工業技術を学ぶ高校として、技術の進歩や社会情勢の変化に対応し、社会や地域の課題解決や新たな価値の創出に貢献できる力を育み、次世代の産業技術者・研究者・開発者として、産業界や社会インフラを支え、グローバル社会に対応できる人物を育成する教育活動により、地域に信頼され誇りとされる学校をめざす。 1. 幅広い知識を得て、複合化する技術進展の課題に対応できる力を育成する。 2. 自身の職業観を育みながら、進路実現に向け、学び続ける力を育成する。 3. 規範意識を身につけるとともに他者と協力・協働できる力を育成する。

2 中期的目標

1 豊かな人間性の育成・社会性の醸成 (1) 人権感覚豊かな心の育成及び社会の秩序・ルールを確実に守る規範意識の醸成 ア あいさつの励行や遅刻をしないなどの基本的な生活習慣を身につけた生徒の育成に努める。 イ いじめの予防に重点を置き、安心安全な学校づくりに努めるため、学期ごとに生徒に対しアンケートを実施する。 ※学校教育自己診断(生徒)「先生はいじめについて困っていることがあれば真剣に対応してくれる」肯定率 90%以上をめざす。 (2) 美化・清掃活動の強化による規範意識の醸成 ア 美化・清掃活動に全校で取り組む。 ※生徒向け学校教育自己診断の「校内美化」に関する項目における満足度 75%以上をめざす。 (3) グローバル人材の育成 ア ものづくりニッポンを海外に発信する素地を作るため、海外の高校生との交流を図り、グローバル感覚を育成する。 ※海外の複数の高校との交流を推進する。 ※ユネスコスクールキャンディデート校として、ESD および SDGs を意識した教育活動の取組みを推進し、ユネスコスクールの正式加盟をめざす。
2 確かな学力への取組みと進路保障 (1) 基礎学力の定着を図り、進学希望も含めた様々な進路のニーズに応えるため、「主体的・対話的で深い学び」をめざして授業改善に取り組む。 ア 英語・数学等の授業において、少人数授業を実施し、基礎学力の定着・向上を図る。 イ 「PBL 学習」を推進する。その中で ESD および SDGs の趣旨を意識し、「キャリアガイダンス」「総合的な探究の時間」や「課題研究」での全校的な取組みを計画的に進める。 ウ 生徒の自己肯定感や自己有用感の向上と「主体的・対話的で深い学び」のために、実社会において有用な資格の取得を奨励する。 エ グローバル化や情報化が加速度的に進展する社会で、必要となる語学力（英語）の育成に努める。 ※生徒向け学校教育自己診断の「学力の定着・向上」に関する肯定率 80%以上をめざす。 ※資格試験の合格率 70%以上をめざす。 ※令和9年度には TOEIC Bridge にチャレンジする生徒数 15 人以上をめざす。 (2) 同僚性を高め、積極的に資質向上に取り組む。 ア 授業アンケート及び相互の授業見学を通して、授業力の向上に努める。 イ 各系や教科を中心に経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上等の研修会を開催し、授業力の向上に努める。 ウ 英語および数学、実習での少人数展開授業を実施し、生徒の学力定着及び学力の向上に努める。 エ 会議等のあり方を検討するとともに、全校一斉退庁日やノークラブデー（部活動休養日）を明確にし、日々の定時退庁に努めるなど働き方改革を推進する。 ※生徒向け学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率 80%以上をめざす。 ※教職員向け学校教育自己診断における「教育活動全般にわたる評価と改善」肯定率 75%以上をめざす。 (3) 生徒の自己実現への支援 ア 人権教育・教育相談体制の充実並びに支援教育コーディネーター等による要配慮生徒へのサポート体制の充実 イ 3年間を見通した進路指導の充実 ウ 保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図り、食物アレルギー等に係る事故防止や熱中症、新型コロナ等の感染症、食中毒の予防に努める。 ※入学時には中学校訪問等で生徒情報の把握に努め、SC や校長マネジメント費を活用した SSW とも連携し要配慮生徒へのサポートを行う。 ※生徒向け学校教育自己診断の「進路指導関連」項目の肯定率 90%以上をめざす。
3 ものづくり・地域連携等を通したキャリア教育の充実と開かれた学校づくりを進める (1) 地域産業連携重点型校として、ものづくりを通して地域貢献と保護者との連携により地域に根ざした学校づくりを推進する。 ア 「キャリアガイダンス」「総合的な探究」「課題研究(PBL)」「デュアルシステム」における企業連携等により、地域や地元企業の協力のもと、さまざまな活動を推進する事で地域貢献に努めるとともに地域に根ざした学校づくりをめざす。 イ 保護者と学校が一体となった学校づくりを行う。 ウ 小中学校や行政機関・大学と連携した小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」等を行い生徒の外部交流への参加や発表の機会を増大する。 ※企業・大学との連携の充実・発展に努める。 ※保護者のものづくり教育への理解を深めるために、PTA と連携した事業に取り組む。 ※令和9年度には成果発表の場やさまざまな競技会などへの参加回数及び「ものづくりイベント」や「出前授業」の実施回数 30 回以上をめざす。 (2) 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校 PR に努める。 ※学校説明会参加者数、中学校教員向け説明会の参加者は延べ 500 人以上をめざす。 ※保護者向け学校教育自己診断「家庭と学校の連携や教育情報の提供」肯定率 85%以上をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

府立東大阪みらい工科高等学校

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 豊かな人間性・社会性の醸成	(1) 人権感覚豊かな心の育成、社会の秩序・ルールを守る規範意識の醸成 (2) 美化・清掃活動の強化 (3) グローバル人材の育成	(1) ア・生徒会、部活動部員等生徒を主体とした「あいさつ運動」の実施 ・遅刻の撲滅をめざし、生活指導部と学年等の連携による早朝登校指導の推進 ・3年間を見通した人権ホームルーム計画の策定・実施 ・新入生オリエンテーションで部活動紹介を実施。部活動部員からの勧誘等で部活動加入を奨励 イ・教員間の情報共有を密にして、いじめの予兆を察知するとともに、予兆段階から生活指導上の厳しい指導を実施 (2) ア・保健部、学年、生徒会等の連携で美化・清掃活動の推進 (3) ア・海外高校生との交流実施 イ ESD および SDGs を意識した活動を推進することで、地域や世界への関心を高めグローバル感覚を育成 ウ 「図書部」を活用した生徒への SDG ‘S への取り組みの意識の啓発	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「あいさつ」肯定的回答 90%以上をめざす。 ・総遅刻数 250 回以下をめざす ・生徒向け学校教育自己診断の「人権教育の充実」肯定的回答 80%以上をめざす ・年度末段階の部活動加入率 60%以上をめざす。 イ・生徒向け学校教育自己診断「いじめ関連」肯定率 85%以上及び教職員向け学校教育自己診断「いじめ関連」肯定率 85%以上をめざす。 (2) ア・生徒向け学校教育自己診断「校内美化」満足度 75%以上をめざす。 (3) ア・交流回数 3 回以上をめざす。 イ・各教科・各系や特活部での SDGs を意識した授業での取り組みをおこなう。 ウ・SDGs への取り組みの意識を啓発する図書館だよりの定期的に発行する。	
2 確かな学力への取り組みと進路保障	(1) 基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業改善の取り組み (2) 同僚性を高め、積極的に資質向上に取り組む。 (3) 生徒の自己実現への支援	(1) ア・少人数による丁寧な授業を実施による生徒の学力向上意識の高揚 イ・SDGs を意識した PBL 学習について研究・実践を進める ウ・生徒への資格取得の推奨と講習の充実 エ・グループウェアの活用と 1 人 1 台端末の活用推進とオンライン授業の体制整備 オ・英語検定の受検推奨 (2) ア・授業アンケート結果及び相互授業参観に基づき、改善方策を検討する イ・経験年数の少ない教員等の学習会や技術力向上の研修会、企業への見学や外部との交流会等を開催し、授業力の向上をめざす ウ・少人数展開教科科目において、担当者同士で授業の進度や深度などの情報交換を行い、生徒の学習定着度を共有し学力向上方策の検討 エ・学校部活動方針（休養日等）の遵守及び全校一斉定時退庁日の遵守を推進する。また、学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化する (3) ア・支援教育コーディネーターと生活指導部・保健部との連携を強化し、配慮を要する生徒へのサポート体制の充実を図る。またカウンセリングマインドを取り入れた生徒指導力の向上を図る イ・3年間を通したキャリア教育を計画的に推進し、生徒の自己実現を支援する。全教員が進路指導担当であるという意識を醸成し、面接指導等において進路部と学年を中心に連携を強化 ウ・保健・安全・衛生管理に関する指導の徹底を図る	(1) ア・生徒向け学校教育自己診断「学力の向上」肯定率 80%以上をめざす。 イ・「キャリアガイダンス」等において SDGs を意識した PBL 学習を実施。 ウ・資格試験受験者の合格率 65% 以上をめざす。 エ・各教科や各系でグループウェアおよび 1 人 1 台端末を活用した授業や教材研究の実施 オ・TOEIC Bridge の受験者数 5 人以上をめざす。 (2) ア・生徒向け学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 80%以上をめざす。 ・授業見学週間の年 2 回実施する。 イ・公開研究授業や校内研修会等を 5 回以上の実施をめざす。 ウ・教職員向け学校教育自己診断「教育活動全般にわたる評価と改善」肯定率を 75%以上 をめざす。 エ・一人当たりの平均超過勤務時間数を昨年度より 5 %削減をめざす。 ・安全衛生委員会を毎月開催する。 (3) ア・支援教育コーディネーターによる配慮を要する生徒及び保護者への面談を実施する。 ・入学生出身中学校訪問による生徒情報の把握と SSW の活用を推進する。 イ・生徒向け学校教育自己診断「就職・進学 の指導や説明」肯定率 80%以上をめざす。 ウ・保健部を中心に保健だよりや放送による予防啓発活動の実施	
3 ものづくりと開かれた学校づくり・地域連携・キャリア教育の充実	(1) ものづくりを通じた地域貢献・保護者との連携による地域に根ざした学校づくりの推進 (2) 学校の教育活動内容等をタイムリーに府民へ情報発信し、学校 PR に努める	(1) ア・地域交流や「企業連携事業」の推進、および各種競技会等への生徒の参加 イ・ものづくり教育への理解と深化を図るための保護者対象実習体験や、地元企業見学会の実施 ウ・小中学校や行政機関・大学との連携事業の実施 (2) ・ホームページ・SNS を活用して、タイムリーな情報発信に努める ・生徒の出身中学校への訪問、中高連絡会、出前授業などを行い、生徒の情報収集、学校 PR を行う ・本校での学校見学会や中学校教員向け説明会などを行い、学校の PR に努める	(1) ア・部活動等による成果発表、地域イベント等への参加・実施回数等 10 回以上をめざす。 ・大学・企業との連携の取り組み件数 5 件以上をめざす。 イ・PTA に対して実習研修、授業見学会、地元企業見学会等を 2 回以上実施する。 ウ・小中学生対象の「ものづくり教室」や「出前授業」等を 10 回以上実施する。 (2) ・ホームページ・SNS の発信を推進し、情報発信の頻度を増加する。特に SNS 発信回数 70 回以上をめざす。 ・教職員や生徒による中学校訪問件数合計 80 件以上をめざす。 ・学校説明会参加者数、中学校教員向け説明会への参加者延べ 500 人以上をめざす。	